

康井グループ米国子会社 MIRWEC FILM 社の活動内容について

昭和 55 年 9 月 コーティングマシンメーカーとして康井精機を設立

昭和 61 年 11 月 康井精機のコーティング技術をバックアップするコーティングリサーチセンターとして㈱ラボ設立

平成 3 年 2 月 米国ニュージャージー州に康井精機 USA を設立。

平成 5 年 9 月 現在のインディアナ州ブルーミントン市に工場を移動。テスト機を 2 台設置して本格的なコーティングリサーチセンターとしてスタート。

平成 6 年 4 月 ㈱ラボは神奈川県綾瀬市にラボリサーチセンター開設。

平成 13 年 6 月 長崎県大村市ハイテクパーク内に㈱ラボ大村開発研究所を開設。1600 mm幅、乾燥炉長 30m、UV 装置、EB 装置などを備えた生産に対応が出来るテスト機と 750 mm幅の試作製品開発用テスト機、300 mm幅の開発用テスト機を設置し、綾瀬研究所で基礎実験が完了したコーティング開発商品の試作生産研究所としてスタート。

平成 18 年 6 月 別敷地内に第 2 開発研究所、㈱康井精機の第 3 組立工場を建設。

康井精機はグループとして、早い時点で GDP30%を消化する米国市場に目を向けていた。



平成 15 年 9 月 三菱レーヨン㈱100%の子会社 MIRWEC FILM INC を企業買収し、新たに北米、欧州、南アメリカの市場開発拠点として康井精機 USA と共に新たなチャレンジをスタート。

平成 16~17 年 テストコーティング、委託加工、コーティング機械の販売を更に促進する為に 80 mm、150 mm、300 mm、750 mm、1600 mm幅のコーティングマシンを設置し、コーティングリサーチセンターとして米国、欧州市場のコーティング製品の委託生産も行える体制を完成させ営業活動スタート。また康井精機が得意とする液晶フィルムに対応した薄膜コーティングシステムのマイクログラビアヘッド、電池などに対応したスロットダイヘッドなどの精密コーティングシステムも更に設置して、米国エンドユーザーのニーズに応えた。

平成 20 年 9 月 高電圧コンデンサーフィルムの製造は発電所の新設が急激に増え受注増、ゴルフシャフトなどに使うラッピングフィルムの生産量増加などにより、コンデンサーフィルム機械の新設機械稼働開始。テストコーティングビジネス、受託コーティングビジネスは米国大手企業の GE 社、GM 社、HP 社、3M 社、デュボン社、電池製造会社、液晶コーティング開発メーカー、太陽電池開発メーカー、フィルムハードコートメーカー、電子ペーパー製造会社、各大学などが来社し、テストコーティング及びコーティング製品の委託加工等実施。現状コーティングマシン稼働率は 1600 mm幅機械で 80%超、その他のコーティングマシンでも 60%超。

MIRWEC 社業務内容

- ・高電圧用 PP フィルム製造
- ・コーティングサービス→レンタルラボコーティング コーティング受託加工
- ・スリーター加工(09 年度)より